

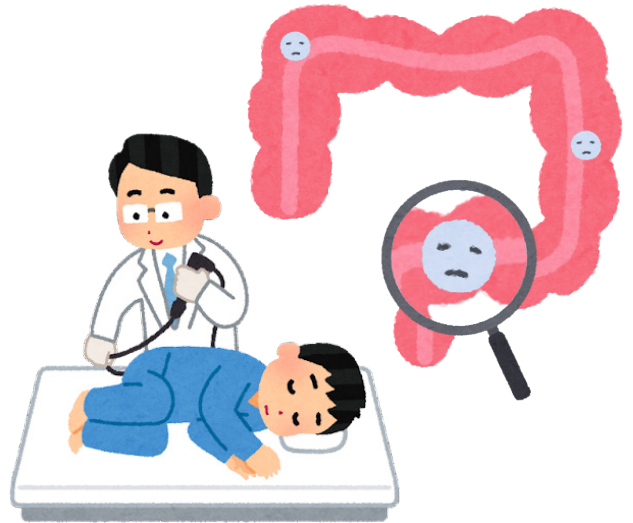


大腸がんと便潜血検査

副院長 総合診療科 蕪澤 融司

2021 年度のがんで亡くなった方の人数は約 38 万人。日本人の 3～4 人に一人が、がんが原因で亡くなっています。

大腸がんは男性では肺に続き 2 位、女性では 1 位となっております。肺がんは胸部レントゲンを撮影することで早期発見は可能ですが、大腸がんの場合は早期の段階では症状がほとんどないので**便潜血検査を行い早期発見することが重要です。**



*便潜血検査は検出率（感度）を上げるため別の日に採取した便を用いた 2 日分で検査を行います。）

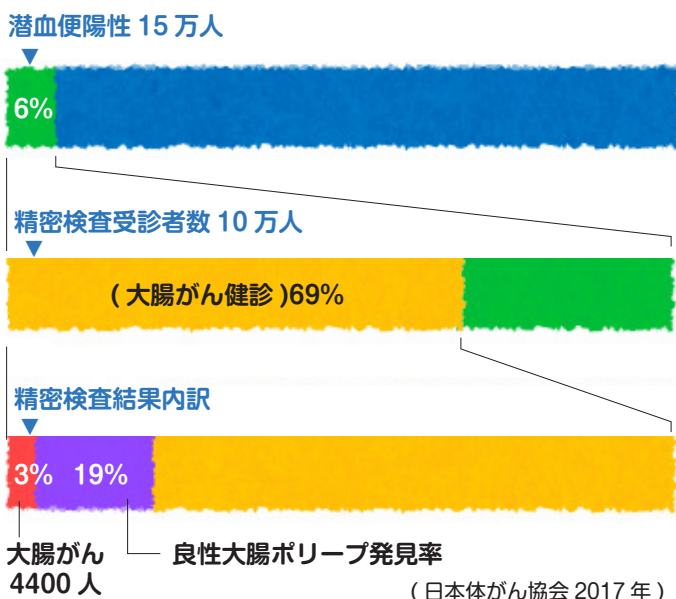
ちょっと古い統計ですが、2017 年に日本対がん協会が行った大腸がん検診をみると受診者数 253 万人のうち便潜血が陽性だった人は 15 万人（約 6%）、この 15 万人のうち 10 万人（約 69%）が精密検査（大腸カメラ）を行うために病院を受診し、大腸カメラの結果がんが発見された人は 4,400 人でした。つまり便潜血陽性で大腸カメラを受けた場合、3%弱の人に大腸がんが見つかったこととなります。また大腸がん以外に約 19%の方に大腸ポリープが見つかっており、大腸ポリープを放置するとがん化する危険があるので、良性の大腸ポリープの発見率（19%）と悪性のがんの発見率 3%をあわせて約 **22%**になんらかの発見があったこととなります。

武蔵野陽和会病院の数字を見ると 2022 年度に大腸カメラを行った 304 例中 34 の方が総合診療科を受診され大腸カメラを行いました。34 例中便潜血が陽性で精密検査としての大腸カメラを行った方が 21 例のうち 3 例（14%）に大腸がんが発見され内視鏡的切除術を行いました。3 例とも早期がんが開腹手術をすることなく完治しております。

部位別がん死亡者数（人）



大腸がん検診受診者数 253 万人



40 歳を境に急激にがんの罹患率が上昇します。 40 歳以上の方は定期健康診断を受けていただき、便潜血反応で大腸がんのスクリーニング検査を行ってください。